サイエンスとテクノロジーで
夢をかたちに

公益社団法人 応用物理学会
The Japan Society of Applied Physics
男女共同参画委員会
Gender Equality Committee
https://www.jsap.or.jp/gender-equality

男女共同参画委員会の活動概要
Committee's activities for gender equality

目標

真に暮らしやすく個々が能力を発揮できる豊かな社会の実現を目指しています。十数名の委員（男女比約半々）が中心となり、男女共同参画の推進に取り組んでいます。応用物理学会内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、社会の活性化に寄与したいと考えています。

委員会の沿革

2001年2月　男女共同参画ネットワーク準備委員会を発足
2001年7月　「男女共同参画委員会」設立
2006年3月　「人材育成・男女共同参画委員会」へ発展的改称
2011年4月　「人財育成・教育事業委員会」 へ改編
2012年2月　「人材育成委員会」へ改称
2015年3月　「男女共同参画委員会」へ改編

男女共同参画活動

応用物理学会では、これまで様々な男女共同参画事業に先進的に取り組んできました。そのひとつが学会講演会期間中の託児室の運営です。2005年の春季・秋季学術講演会より設置された託児室は、毎回多くの方にご利用いただいており、講演会事業の一環としてすっかり定着しました。このような活動は、会員が所属する大学や企業においても、子供を連れて学会へ参加することへの理解が前進することにも貢献しています。

シンポジウムの開催

毎年、春季学術講演会でシンポジウムを開催しています。
2013年春から4回にわたり、「応用物理分野で活躍する女性達シリーズ」としてフォトニクス、バイオエレクトロニクス、プラズマと応用技術の各分野で活躍する女性研究者が最新の研究成果と将来展望を発表しました。
2017年春からは、男女に限らず誰もが能力を発揮し活躍できる社会の実現を目指し、男女・文理・職種・国籍の観点からダイバーシティについて考えたり、若手研究者のキャリアパスや海外と日本の研究環境の違い等、様々なテーマを取り上げています。

＜最近のシンポジウムテーマ＞
2017年：科学技術の未来に向けたダイバーシティ推進～男女・文理・職種・国籍の観点から～
2018年：「科学技術立国日本」の凋落危機を救う若手研究者の活躍推進
2019年：ここがヘンだよ、日本の研究環境
2020年：応用物理分野におけるダイバーシティ 推進を通じた次世代人材育成 ―学会としてできること／すべきこと―*（新型コロナ（COVID-19）感染拡大のため中止）*

研究者ネットワークの強化

女性会員を中心とした研究者のネットワークの活性化を目指して、2013年より女子だけではない「女子会」を開催してきました。孤立しがちな女性会員をサポートし、ネットワークの力でもり立てていく役割を担いました。
2016年より、男女や国籍を問わず多くの方にご参加頂こうという趣旨で「NEWMAP（NEtwork for Women and Men in Applied Physics）」へ改称し、活発な議論の機会を提供しています。

女子中高生の理系進路選択支援

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、女子中高生と科学研究者・技術者、理系大学生・大学院生と交流し、理系の魅力を伝える場として2008年から「女子中高生夏の学校」へ参加しています。
キャリア講演、サイエンスアドベンチャー（科学探検隊）での実験、ポスターセッション等を通して多くの女子中高生の皆さんとの交流の場を広げています。

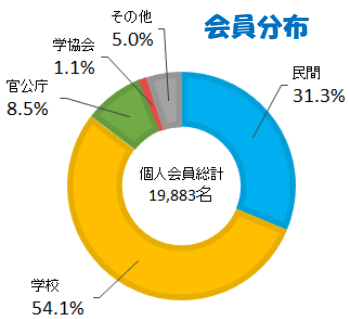
国際交流

2008年IUPAP-WGに講演したのを皮切りに、GS（Gender Summit）、IUPAP（International Union of Pure and Applied Physics）にて定期的に講演・ポスター発表を行っています。
応用物理学会男女共同参画委員会の活動紹介のほか、各種データに基づく分析・考察を通じて、男女共同参画の現状と課題について国内外へ発信しています。

表彰事業

2009年に女性研究者奨励育成貢献賞（小舘賞）が設立され、2011年には、「女性研究者研究業績・人材育成賞」に名称変更を行いました。学会活動を通して応用物理学の研究活動において著しい成果をあげた女性研究者（A部門）と、男女共同参画活動の推進・人材育成に貢献することで科学技術の発展に大いに寄与した研究者・団体（B部門）を表彰しています。

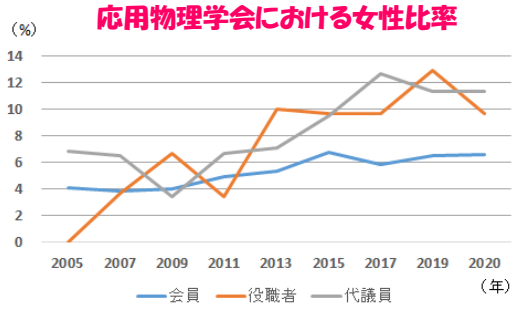
会員分布



応用物理学会とは？

工学と物理学の接点にある最先端の研究課題、学際的なテーマに取り組み、日本の科学技術を牽引しています。会員数は約2万人で、大学・公的研究所の会員に加え、民間企業の研究開発部門に所属する技術者・研究者が重要な役割を果たしています。年2回の学術講演会は国内最大級で、海外の研究者も含めて約1万3千人（春秋合計）もの参加者が集まります。英国物理学会出版局（IOP Publishing）と提携して国際的英文論文誌JJAPとAPEXを刊行しています。

学会活動への女性参加の状況

応用物理学会員の女性比率は6 %程度と決して高くはありませんが、多くの女性がこの分野で活躍しています。会員に占める女性の割合、会長・副会長・理事等の役職者および代議員の女性比率のいずれも年々高まり、特に役職者の女性比率は今では10 %を超えています。今後、女性会員の活躍する舞台がますます広がっていくと期待されます。

応用物理学会における女性比率